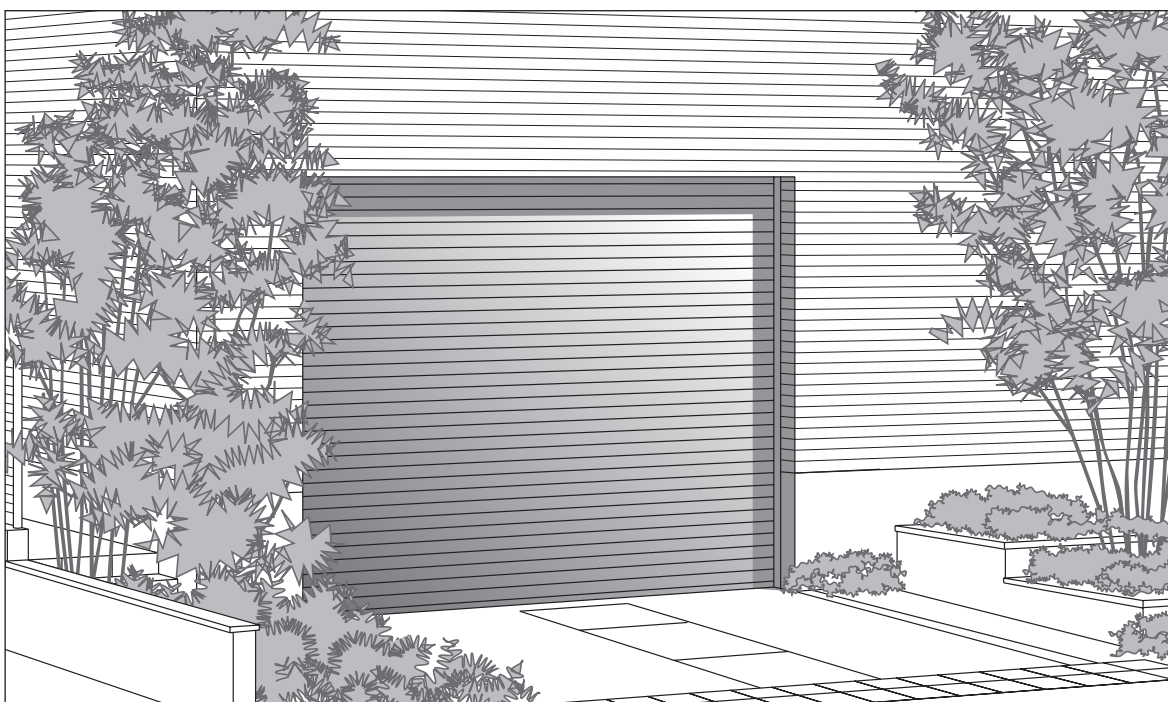


軽量アルミシャッター 小町様

取扱説明書



ご使用の皆様へ



この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
わからないことや不具合が生じた時にはもう一度ご覧ください。
また、いつでも使用できるように大切に保管してください。

建設会社様へ

この取扱説明書をご使用になる方へ必ずお渡しください。

お施主様、管理者様へ

本製品を長期間安全にご使用いただくためには、定期点検と定期的な部品交換が必要です。38 ページをご覧ください、必ず実施してください。

安全にお使いいただくために

- 「小町様」のご使用前に「ご使用上の注意」をよく読み、理解してから使用してください。
- 長期間正常な使用ができるように、「定期点検契約」を結んでいただくようお願いいたします。

- 安全にご使用いただくために特に大切な「お知らせ」には、本取扱説明書では次のようなシンボルマークとシグナル用語で危険のレベル分けをしています。



取扱いを誤った場合に、使用者または不特定多数の第三者が、死亡または重傷を負う可能性があり、かつその危険性と隣りあわせであることを示しています。

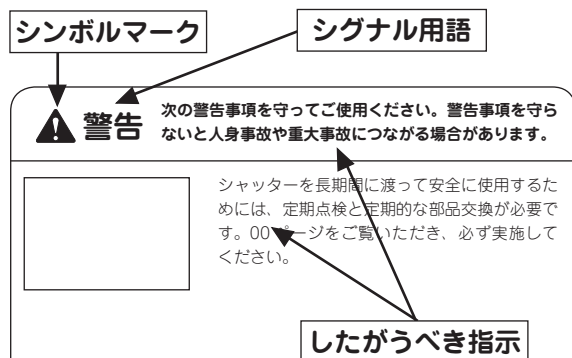


取扱いを誤った場合に、使用者または不特定多数の第三者が、死亡または重傷を負う可能性のあることを示しています。



取扱いを誤った場合に、使用者または不特定多数の第三者が、軽傷を負うかまたは物的損害を被る可能性があることを示しています。

本文では以下のように使用します。



「シグナル用語」に続く「したがうべき指示」を十分守らないと、人身事故につながるようになります。

- 上記以外の「お知らせ」には次のようなシグナル用語を使用しています。

注 記

取扱いを誤った場合に、本製品に故障が発生したり、性能が発揮できないことが想定される場合。

はじめに

- この取扱説明書は、実際に「小町様」をご使用になる方（管理者・オーナー）のために使用方法を説明したものです。
- 最初に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、「小町様」をご使用ください。
- 経験者の方でも、少しでも不確かな点がございましたら、この取扱説明書をよくお読みのうえ、確かめてから「小町様」をご使用ください。
- 29 ページ「リモコン(ID コード)の管理のお願い」にしたがって、リモコン ID コードシールを貼付けてください。リモコン ID コードが不明になりますと、紛失したリモコンの抹消ができません。

目
は
じ
め
に

目 次

1. ▲ ご使用上の注意.....	2
表示ラベルについて	2
基本的な注意	3
停電時の操作方法に関する注意	10
強風時の注意	11
厳寒時の注意	11
2. ご使用にあたっての留意事項	12
3. 製品の概要.....	13
本体の名称とそのはたらき	13
製品仕様	14
電動本体	14
手動本体	14
4. ご使用方法	15
電動式の使い方.....	15
リモコンを使っでの操作	16
押しボタンスイッチを使っでの操作（オプション）.....	17
障害物感知機能について	18
電動式の手動切り替え操作.....	21
リモコンの電池交換.....	24
リモコン（ID コード）を追加登録する方法.....	25
リモコン（ID コード）を抹消する方法.....	27
リモコン（ID コード）の管理のお願い.....	29
スイッチ 2 回押し操作への切替方法.....	30
手動式の使い方.....	32
開け方	33
閉め方	34
5. お手入れ方法.....	35
6. 点検	37
日常点検.....	37
定期点検と定期的な部品交換について	38
定期点検の回数.....	38
定期的な部品交換について（有償）.....	39
定期点検契約について.....	39
7. 故障かなと思ったら	40
製品本体	40
8. 修理のご案内.....	41
9. 製品保証	裏表紙

1. ⚠️ ご使用上の注意

- この章に記載されている内容をすべて読み、完全に理解したうえで「小町様」をご使用ください。
- この取扱説明書は必要なときに、いつでも取り出して読めるように大切に保管してください。
- 「小町様」に貼付されている表示ラベルとこの取扱説明書に表示されているすべての注意および指示に必ずしたがってください。

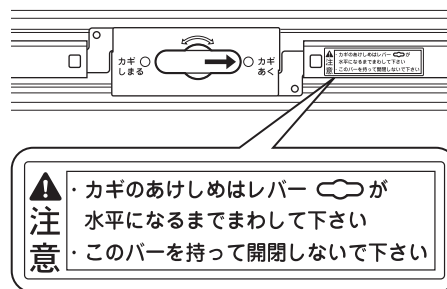
表示ラベルについて

- 本製品には、危険と安全に関する警告情報を記載した、以下の表示ラベルを貼付しています。表示ラベルの指示には必ずしたがってください。
- 表示ラベルが汚れたり、はがれたりした場合は、最寄りの文化シャッター営業所までご連絡ください。

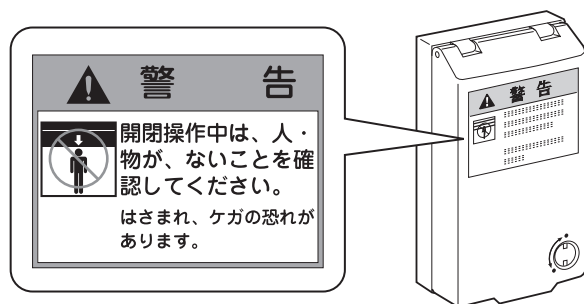
■ リモコン（セレカードⅢ）



■ ハイロック外錠の屋内側



■ 押しボタンスイッチ（オプション）



基本的な注意



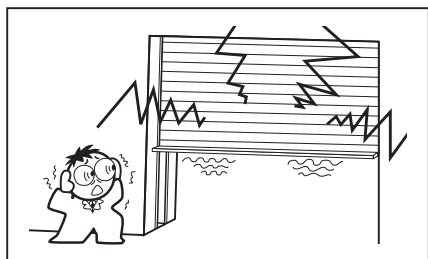
警告

次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



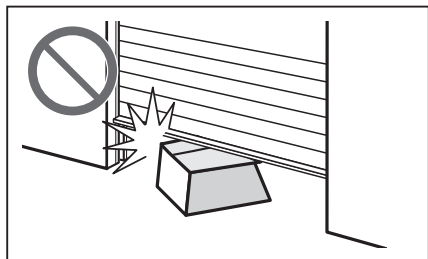
電動式 手動式

シャッターを長期間に渡って安全に使用するためには、定期点検と定期的な部品交換が必要です。38 ページをご覧ください、必ず実施してください。



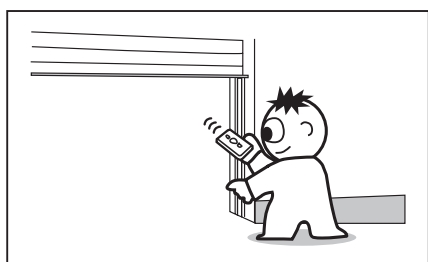
電動式 手動式

40 ページ記載「7. 故障かなと思ったら」にもあてはまらない異常な動作をしたり、異常な音がした場合は、直ちに使用を中止して41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社に修理をご依頼ください（有償）。



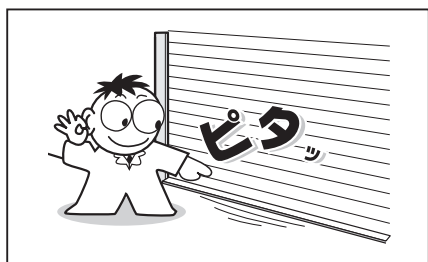
電動式 手動式

シャッターの下で立ち止まったり、車を止めたり物を置かないでください。
思わぬ事故につながるおそれがあります。



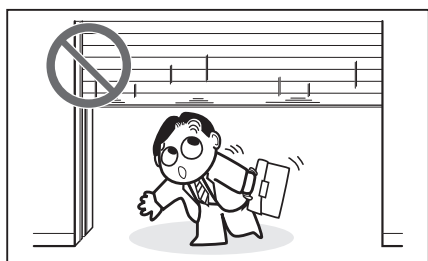
電動式 手動式

シャッターの下に人がいないこと、物がないことを確認してから操作してください。



電動式 手動式

シャッターが完全に閉まるまで、シャッターのそばを離れず、目を離さないようにしてください。
第三者がシャッターにはさまれる場合があります。



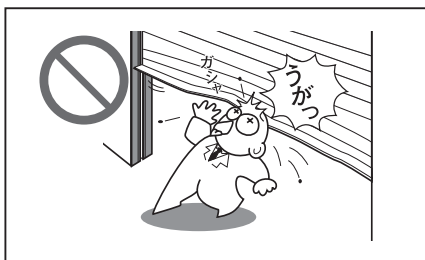
電動式 手動式

シャッターが動いているときに人や車の出入りをしないでください。



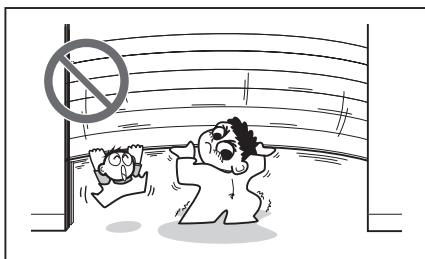
警告

次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



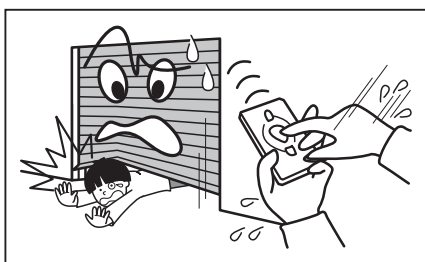
電動式 手動式

シャッターが完全に開いてから通行してください。完全に開けずに通行すると、ぶつかってケガをしたり、物を破損するおそれがあります。また、不意にシャッターが降りて思わぬケガや事故になる場合があります。



電動式 手動式

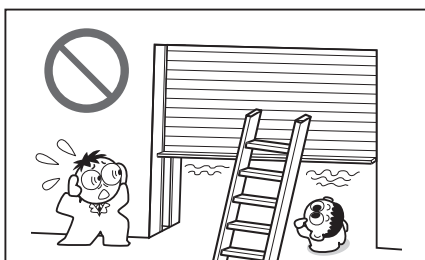
シャッターが動いているときは、手で止めようとしたり、ぶらさがったり、カーテンやレールに指をかけるなど、シャッターに触らないでください。シャッターが故障したり、はさまれたりするなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。



電動式

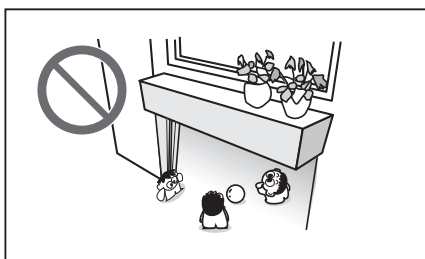
シャッターを閉めているときに開けたい場合は一旦「STOP（停止）」スイッチを押した後、「OPEN（開）」スイッチを押してください。「STOP（停止）」スイッチを押さないと、シャッターは閉まりつづけます。

リモコンを誤操作防止の設定にしているときは、「STOP」スイッチを押した後、「OPEN」スイッチを2回押してください。



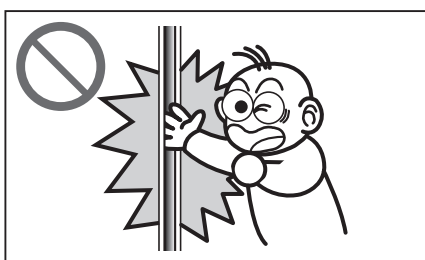
電動式 手動式

シャッターに物を立てかけないでください。物を立てかけたまま開閉すると、物が倒れてくるなどして思わぬ事故になる場合があります。



電動式 手動式

ケースの上に物を置かないでください。カーテンの振動により物がケースから落下する場合があります。



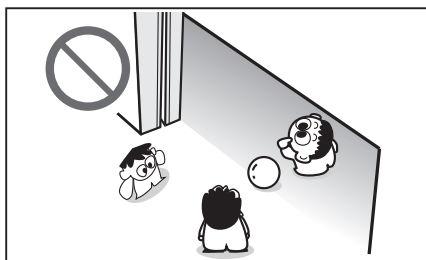
電動式 手動式

ガイドレールの溝など、部材のすき間や、動く部分に指を入れないでください。思わぬけがをする場合があります。



警告

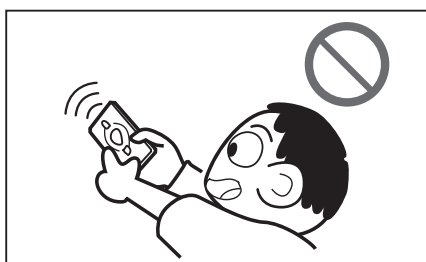
次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



電動式 手動式

シャッターの下やその付近で子どもを遊ばせないでください。

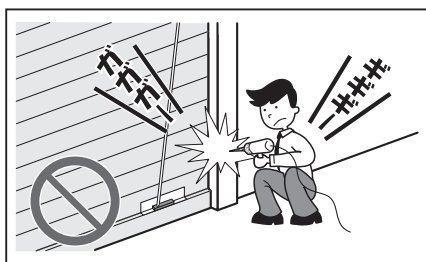
思わぬけがをする場合があります。



電動式

子供には、リモコンや押しボタンスイッチを操作させないでください。

子供や第三者が誤ってはさまれるおそれがあります。シャッターを使用しない場合は、押しボタンスイッチに鍵をかけてください。



電動式 手動式

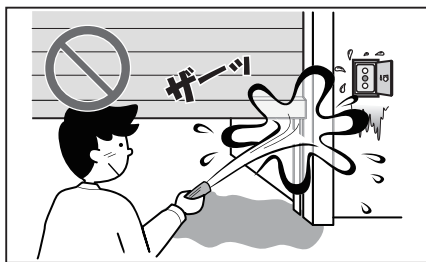
ガイドレールやボックス部など、製品にビス止めしたり釘を打ちつけないでください。また、物をぶつけないでください。

故障の原因となったり、配線などが傷つき、本来の機能が発揮できなくなったり、漏電したりするおそれがあります。



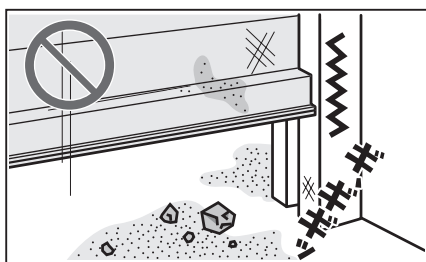
電動式 手動式

製品の日常点検以外の点検、修理には専門知識が必要なので、当社の手配によらない分解、改造、修理は絶対にしないでください。分解等によりその他の部分にも故障が生じたり破損が発生するおそれがあります。製品の点検、修理等が必要な場合は41ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご依頼ください（有償）。



電動式 手動式

製品に水をかけないでください。汚れたときなどは、35ページに記載してある「5. お手入れ方法」にしたがって清掃してください。製品に水をかけるとサビの発生や消耗が促進されたりします。また電装品が漏電して、勝手に動作したり感電するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。



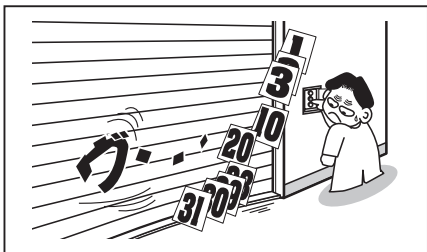
電動式 手動式

水切りや周辺の床はいつも清掃してください。水切りの隙間にドロや小石が詰まると正常に作動しない場合があります。



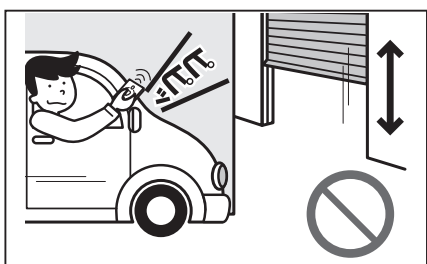
警告

次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



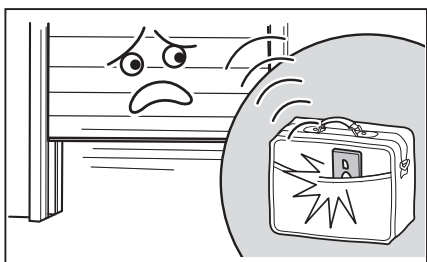
電動式 手動式

少なくとも1カ月に1回は開閉してください。
長期間使用しないと錆をはじめとした不具合が生じるおそれがあります。



電動式

シャッターが見えないところから操作しないでください。開閉操作をする際は、シャッターの下に人がいないこと、物がないことを確認してください。人や車などが挟まれる事故につながるおそれがあります。



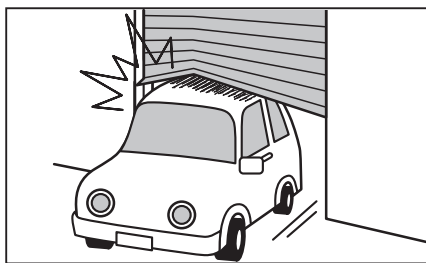
電動式

リモコンをカバンや服のポケットの中に入れるときは、スイッチにカバンやポケットの中の物などがあたらないようにしてください。
スイッチに物があたると、意図せずシャッターが動き出す場合があります。
リモコンの誤操作防止の設定もあります。
詳しくは、30 ページ「スイッチ2回押し操作への切替方法」を参照してください。



注意

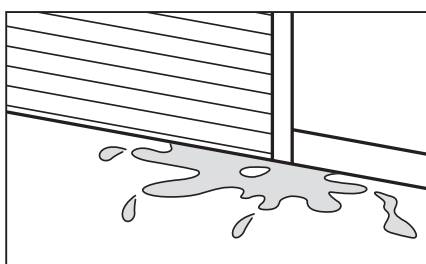
次の注意事項を守ってご使用ください。注意事項を守らないとけがや事故につながるおそれがあります。



電動式

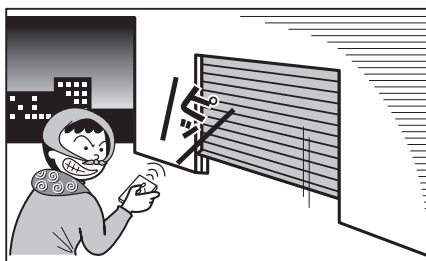
万一シャッターに障害物がはさまれた状態で停止した場合にはリモコン操作もしくは押しボタンスイッチにより、一旦シャッターを開けてから障害物を取り除いてください。開かない場合は、41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください。

はさまった状態で無理に取り除くとけがをしたり、シャッターや障害物が破損する場合があります。



電動式 手動式

シャッターの内側に水が入ってくる場合があるので、濡れて困るものをシャッターの近くに置かないでください。



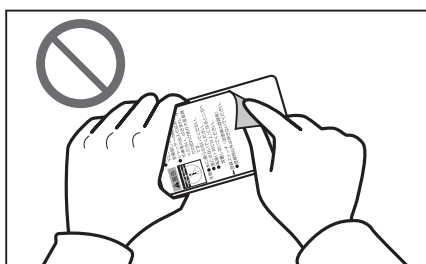
電動式 手動式

リモコンや鍵は紛失しないようご注意ください。第三者によってシャッターを開けられるおそれがあります。

リモコンを紛失した場合は、27 ページをご覧ください、紛失したリモコンの ID コードを抹消してください。

鍵を紛失した場合は、鍵本体の交換をおすすめします。

鍵本体の交換は 41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご依頼ください（有償）。



電動式

リモコンの技術基準適合証明ラベル（リモコン裏蓋に貼ってあるラベル）ははがさないでください。

ラベルのないリモコンは使用が禁止されています。



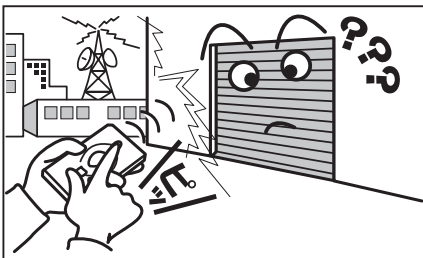
電動式

リモコンの海外での使用は絶対にしないでください。外国の電波法に準じていません。



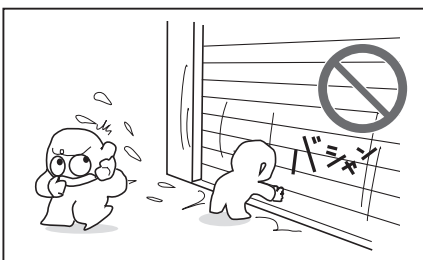
注意

次の注意事項を守ってご使用ください。注意事項を守らないとけがや事故につながるおそれがあります。



電動式

テレビ・ラジオの送信所近辺などの強電界地域でリモコンを使用した場合、到達距離が短くなったり、正常に動作しないことがあります。



手動式

シャッターはゆっくりと静かに開閉してください。急な開閉ををすると、人にぶついたり、シャッターについた雨水が飛び散り衣服などを汚すおそれがあります。

注 記

次の注意事項を守ってご使用ください。注意事項を守らないと本製品に故障が発生したり、性能が発揮できない場合があります。

<故障防止について>

- 本製品の分解・改造は絶対にしないでください。分解・改造は電波法で禁止されています。
- リモコンを水に浸けないでください。水の中に入れると内部まで浸水して故障の原因になります。
- リモコンを落としたり、乱暴に取り扱わないでください。
- リモコンを車のダッシュボード、直射日光下で高温になるところ、湿気の多いところ、極端な温度になるところ（70℃以上または－20℃以下）に放置しないでください。

<誤動作について>

- リモコンに強い磁気を近づけないでください。リモコン内部の電子部品が磁気により正常に動作しない場合があります。
- 電波式無線中継局からの強電界の電波がリモコンに加わった場合、到達距離が短くなったり、正常に動作しないことがあります。また非常に強力な電波（不法CB等）がリモコンに加わった場合、誤動作する恐れがあります。
- 静電気などの影響により正常に動作しない場合があります。
- フロントガラスに熱反射ガラスを使用している車は、電波の透過性が低いため、到達距離が短くなる場合があります。

<保管・電池交換について>

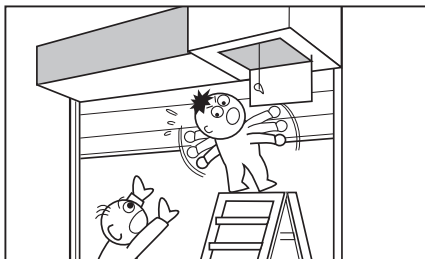
- 長時間ご使用にならない場合は、腐食防止のため電池を外してください。
- リモコンはお子様の手の届かない安全なところに保管してください。
電池を飲み込んだり、誤った操作をして生命にかかわる事故になる場合があります。万一、電池を飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談ください。
- 電池は分解、加工、充電、ショート、加熱、火中投入などしないでください。
液漏れ、発火、発熱、破裂の原因となります。
- 電池を破棄する場合はテープなどで巻いて絶縁してください。
他の金属や電池を混ぜると発火、破裂の原因となります。

停電時の操作方法に関する注意



警告

次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



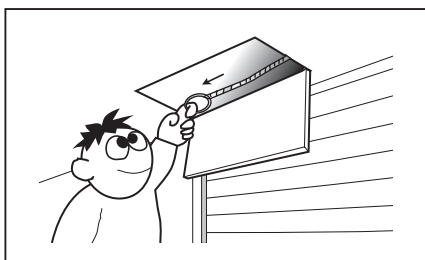
電動式

停電などの非常時の操作には高所作業を伴います。高所で暗いところでの作業となることもあり危険が伴うため、基本的には41ページ記載の文化シャッターサービス株式会社へ対応依頼をお願いします（有償）。なお、緊急を要する際など、やむを得ずお客様にて操作される場合には、ヘルメットや安全帯の着用、必要な足場や照明の確保など、墜落・転落事故の予防を行い、安全を十分に確保し、21ページ記載の「電動式の手動切り替え操作」の手順を守って操作を行うようお願いいたします。



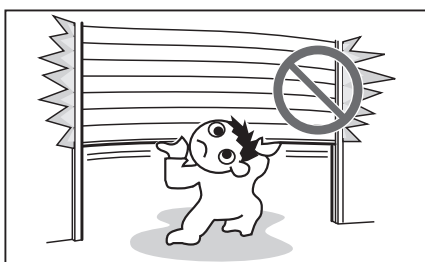
注意

次の注意事項を守ってご使用ください。注意事項を守らないとけがや事故につながるおそれがあります。



電動式

停電など非常時に手動操作に切り替えた場合、必ず電動操作にもどしてください。
手動操作のままにしておくと、シャッターを手で開けることができるため盗難のおそれがあります。



手動式

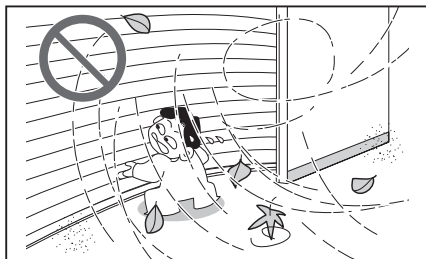
手動操作はシャッター水切り（シャッターカーテン下端）を持って開閉しないでください。必ずシャッターカーテンを持ってゆっくりと開閉してください。シャッター水切りを持って開閉すると、障害物感知装置が故障するおそれがあります。

強風時の注意



警告

次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



電動式 手動式

台風などの強風時にはシャッターに近づいたり動かしたりしないでください。シャッターが外れて人や物にあたる場合があります。

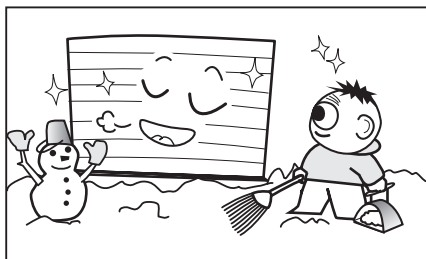
なお、強風でシャッターが外れた場合は、41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社に修理をご依頼ください（有償）。

厳寒時の注意



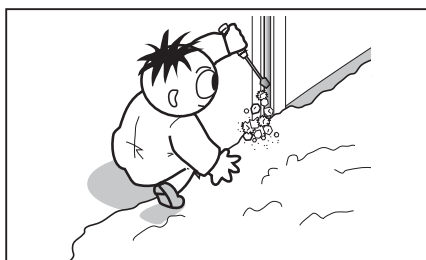
警告

次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



電動式 手動式

カーテン表面や水切りの凍結・着雪を取り除いてからご使用ください。カーテンが凍結したり、着雪した状態ではカーテンを正常に巻き取れない場合があります。



電動式 手動式

ガイドレール内の雪や氷は、取り除いてからご使用ください。無理に開閉しようとすると、思わぬケガをする場合があります。



電動式 手動式

厳寒時にシャッターを開けた場合は、速やかに閉めてください。

シャッターを開けたままにすると、カーテンが凍結し、凍結したシャッターを閉めようとすると、カーテンから氷が外れ、シャッターが急に閉まる場合があります。シャッターが異常な動作をしたり、異常な音がある場合は、41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください（有償）。

2. ご使用にあたっての留意事項

● 下記事象は製品の特性であり、不具合ではありませんのでご注意ください。

- 風雨時にシャッターを閉めた状態でも、カーテンの屋内側が濡れることがあります。これはカーテンの屋外側に横向きの風雨が当たった場合、カーテンの屋内側に水が伝わるためです。
- カーテンの屋外側が、雨などに濡れているときに開閉すると、カーテンの屋内側に水滴が付くことがあります。これはシャッターを巻き上げた際、カーテンの屋外側と屋内側が重なるためです。
- シャッターの構造上、カーテンに付着している水滴も一緒に巻き上げるため、シャッターケース内に水が垂れ、ケースから水がもれることがあります。
- 電動式の場合、開閉途中で引っ掛かるような動きをすることがあります。これは開閉機の出力と巻取り軸内蔵のスプリング力でバランスをとりながら開閉するためです。
- 強風時にカーテンがたわむ場合があります。
- シャッターを閉めてもすき間から、屋外の光が入ることがあります。
- シャッターを閉めた状態で、強風などによりカーテンが揺れて音がする場合があります。
- ライトカーテンは、センサレンズ面に直射日光が当たる場合や床面が反射率の高いもの（大理石、水たまりなど）の場合、太陽光などの光の影響を受け、シャッター降下中に勝手に停止するなど、センサが正しく作動しない場合があります。
- 同じ高さのシャッターが並んで設置されている場合に、カーテンのラインの高さがそろわない場合があります。

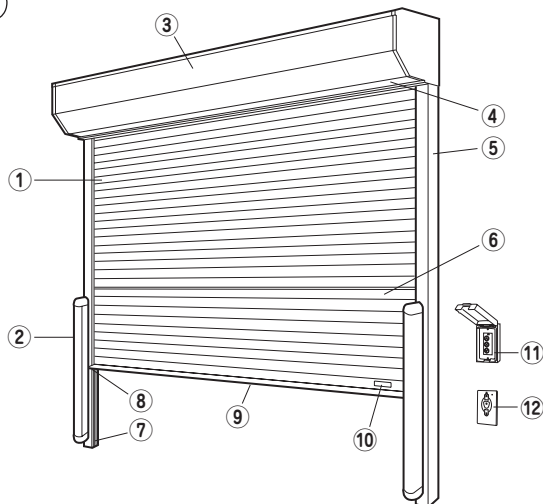
3. 製品の概要

本体の名称とそのはたらき

本体外観

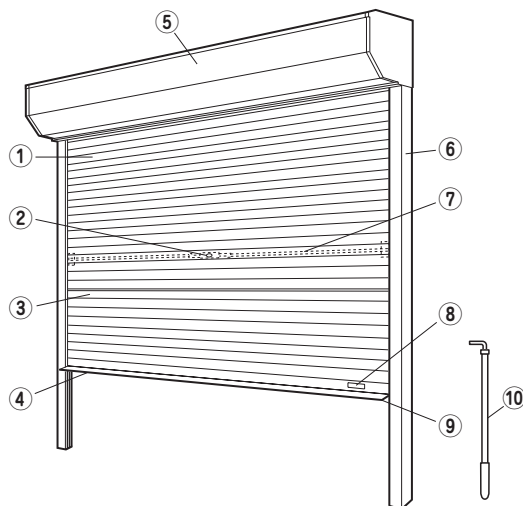
※ お使いの製品によっては外観が異なる部品があります。

電動



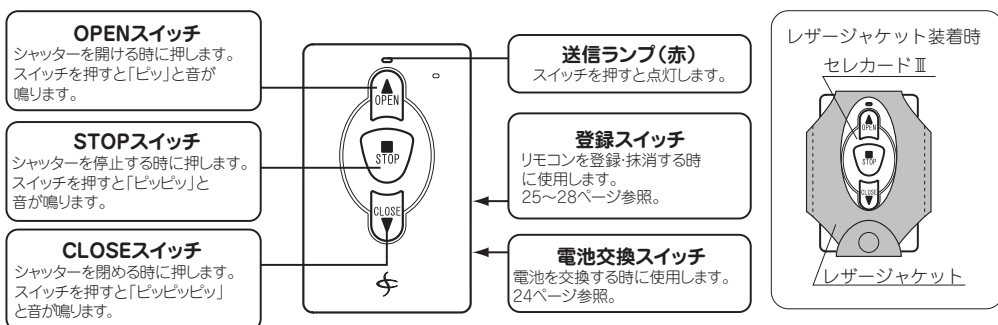
- ①カーテン
- ②ライトカーテン（デラックスタイプのみ）
- ③シャッターケース
- ④点検口もしくは手動切替装置
- ⑤ガイドレール
- ⑥手掛けスラット（オプション）
- ⑦光電管センサ（オプション）
- ⑧水切キャップ
- ⑨水切り
- ⑩ブランドラベル
- ⑪押しボタンスイッチ（オプション）
- ⑫リモコン（セレカードⅢ）

手動



- ①カーテン
- ②ハイロック外錠
- ③手掛けスラット
- ④水切り
- ⑤シャッターケース
- ⑥ガイドレール
- ⑦ハイロックバー
- ⑧ブランドラベル
- ⑨水切キャップ
- ⑩フック棒

リモコン（セレカードⅢ）



- リモコン裏面の技術基準適合証明ラベルに記載しています は、本機が総務省の技術基準に適合していることを表しています。

製品仕様

＜設計耐用回数および年数＞

10,000 回開閉／10 年

● 使用条件 周囲温度：－10℃～＋40℃

周囲湿度：RH85% 以下

周囲環境：沿岸部、腐食環境および粒じん発生環境を除く

● 「設計耐用回数および年数」は保証値ではありません。保証期間については「製品保証」を参照してください。

● 「設計耐用回数および年数」はお客様による適切な維持・管理とお手入れを行い、かつ専門技術者による定期的なメンテナンス（定期交換部品の交換、注油、調整など）を実施した場合の数値です。なお、沿岸部、温泉地帯、化学・薬品工場などの腐食性環境や、大気中の砂塵、煙などが商品に付着する場所、および高温、低温、多湿などの使用環境下では、記載数値を満足しないことがあります。

※ 正常なご使用方法でも、シャッターカーテン同士やガイドレールなどとの接触部分では、音、傷が発生することがあります。発生状況は使用頻度や使用環境に大きく左右されますが、シャッターの作動には問題ありません。ただし、錆などが発生する可能性があるため、定期的なお手入れの実施をお願いします。

	電動		手動
	スタンダードタイプ	デラックスタイプ	
スラット	発泡ウレタン充填アルミ		
ガイドレール/水切り	アルミ		
シャッターケース	カラー鋼板		
障害物感知装置	○※ ¹	○※ ¹	－
リモコン	2枚標準装備	2枚標準装備	－
手掛け	オプション	オプション	○
耐風圧強度	750Pa (76.5kgf/m ²)		

※ 1 障害物感知装置は、デラックスタイプでは、負荷感知式およびライトカーテンが標準となります。

電動スタンダードタイプでは、負荷感知式が標準装備となります。

また、オプションで光電管センサをご用意しています。光電管センサを設置している場合は、別冊「光電管センサ取扱説明書」をご確認ください。

電動本体

操作	電動式（3点式リモコン操作）／停電時手動操作	
使用電源	AC 100V	
周波数	50Hz／60Hz	
消費電力	40W	
平均巻き上げ速度	5.3m／分（50 Hz） 6.3m／分（60Hz）	
障害物感知装置	負荷感知式（標準）	障害物に接触し200N以下で作動
	ライトカーテン	障害物が複数ある光軸のいずれかを遮った場合に作動

リモコン（セレカードⅢ）

電池	コイン型リチウム電池 CR2025×1個
電池寿命	約1年（1回1秒・1日10回使用）※ ²
実用到達距離	10～50m程度※ ³
送信出力	1mW以下
ID コード	約1677万通り
使用周波数	426MHz帯
使用周囲温度	－20℃～＋70℃
使用周囲湿度	RH90%以下（結露・氷結のないこと）

※ 2 使用状態により異なる場合があります。

製品出荷時にセットされている電池はテスト用のため、電池の消耗が早い場合があります。

※ 3 到達距離はテレビ・ラジオの送信所近辺などの強電界地域や、建物状態および受信機設置場所により変わります。

また、車のフロントガラスに熱反射ガラスを使用している場合や、緊急災害時などに使用される電波による影響などで、到達距離が短くなる場合があります。

手動本体

操作	手動式
開閉に必要な力	約12kg

4. ご使用方法

電動式の使い方



警告

3～11ページの警告事項・注意事項を守ってご使用ください。これらを守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

注 記

<故障防止について>

- リモコンのスイッチを押すときは、リモコン先端をシャッターに向け1～2秒軽く押してください。強く押し続けると故障の原因となります。
- リモコンの「OPEN」と「CLOSE」スイッチ、または押しボタンスwitchの「開」と「閉」のボタンは決して同時に押さないでください。故障の原因となります。
- リモコンを落としたり、乱暴に取り扱わないでください。
- リモコンを車のダッシュボード、直射日光下で高温になるところ、湿気の多いところ、極端な温度になるところ（70℃以上または-20℃以下）に放置しないでください。
- 雷の音が鳴り出したら早めにシャッターの電源（コンセントまたはブレーカー）を切ってください。
落雷の大きさによっては動作しなくなるおそれがあります。

<誤動作について>

- リモコンに強い磁気を近づけないでください。リモコン内部の電子部品が磁気により正常に動作しない場合があります。
- 電波式無線中継局からの強電界の電波がリモコン装置に加わった場合、到達距離が短くなったり、動作しにくい場合があります。また非常に強力な電波（不法CB等）がリモコン装置に加わった場合は、誤動作するおそれがあります。
- 静電気等の影響により正常に動作しない場合があります。
- 長時間ご使用にならない場合は、電波障害等による誤動作を防ぐため、シャッターの電源を切ってください。

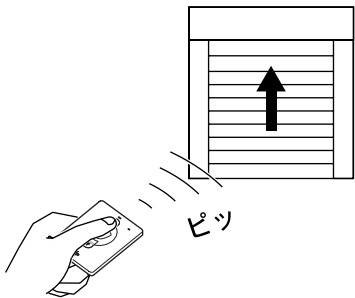
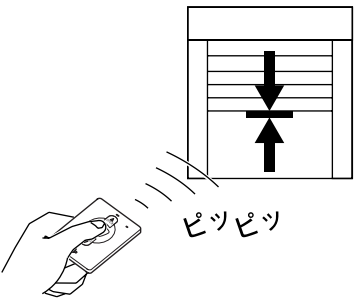
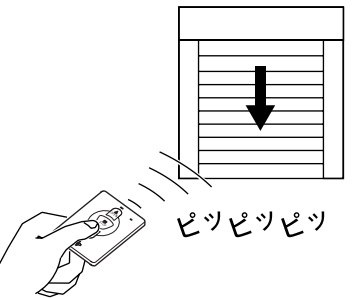
<保管・電池交換について>

- 長時間ご使用にならない場合は、電波障害等による誤動作を防ぐため、シャッターの電源（コンセントまたはブレーカー）を切ってください。また、腐食防止のためリモコンから電池を外してください。
- リモコンはお子様の手の届かない安全なところに保管してください。電池を飲み込んだり、誤った操作をして生命にかかわる事故になる場合があります。万一、電池を飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談ください。
- 電池は分解、加工、充電、ショート、加熱、火中投入などしないでください。液漏れ、発火、発熱、破裂の原因となります。
- 電池を破棄する場合はテープなどで巻いて絶縁してください。他の金属や電池を混ぜると発火、破裂の原因となります。

リモコンを使っの操作

注 記

- リモコンには、スイッチ 1 回押しの設定と、誤操作防止のためのスイッチ 2 回押しの設定の 2 種類あります。
該当する方の使い方をご確認ください。設定はお客様にて切り替えることも可能です。詳細は、30 ページ「スイッチ 2 回押し操作への切替方法」を参照してください。

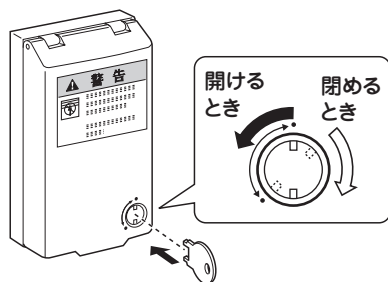
開けるとき	停止するとき	閉めるとき
● スイッチ 1 回押しの場合 「OPEN」スイッチを 1 回押す ● スイッチ 2 回押しの場合 「OPEN」スイッチを 2 回押す シャッターが上昇し、全開位置（完全に開いた位置）で自動停止します。 	「STOP」スイッチを 1 回押す（スイッチ 1 回押し／2 回押し共通） シャッターが停止します。 	● スイッチ 1 回押しの場合 「CLOSE」スイッチを 1 回押す ● スイッチ 2 回押しの場合 「CLOSE」スイッチを 2 回押す シャッターが降下し、全閉位置（完全に閉じた位置）で自動停止します。 

- スイッチの早押しや連続押しを 3 秒以上行った場合、リモコン操作を受け付けない場合がありますが、故障ではありません。
これは、無線設備規制に基づくもので、2 秒間経つと、リモコン操作を受け付けるようになります。
- 2 回押しのときの 2 回目は、リモコン上部のランプが点滅している間（約 3 秒間）に押してください。
- スイッチを押している間、音が鳴りつづける場合は、電池容量が低下しています。お早めに電池を交換してください。→ 24 ページ「リモコンの電池交換」

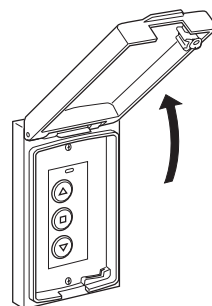
押しボタンスイッチを使っでの操作（オプション）

※ お使いの製品によっては押しボタンスイッチの外観が異なるものもございます。

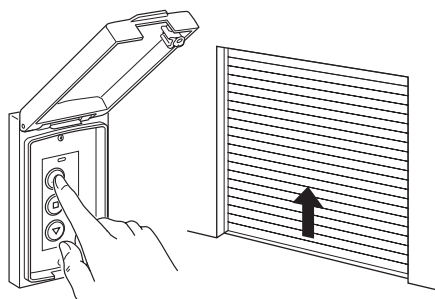
1 鍵を差し込み左にまわします。



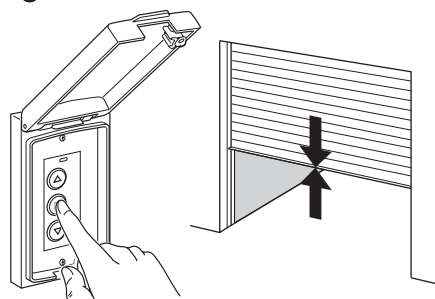
2 フタをあけます。



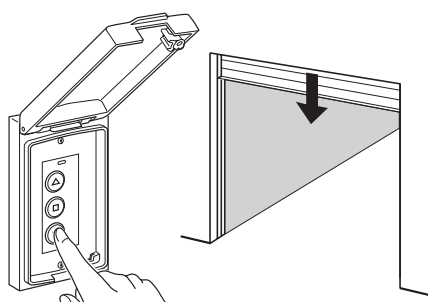
3 上昇させるときは、「開」ボタンを押します。



4 上昇または降下を停止するときは、「停」ボタンを押します。



5 降下させるときは、「閉」ボタンを押します。



6 フタをしめます。

7 鍵を右にまわし、ぬきます。

8 フタがロックされているか確認します。

9 鍵を大切に保管します。

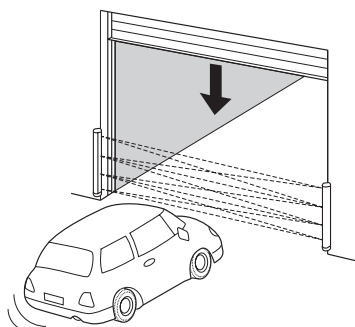
障害物感知機能について

- 障害物感知機能は、シャッターが降下しているときに人や車の出入り感知し、シャッターを自動停止させる機能です。

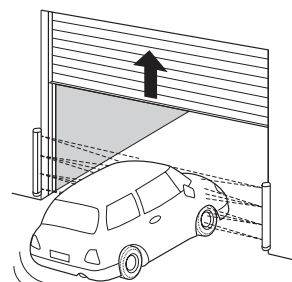
ライトカーテン（デラックスタイプ）

- シャッター降下中、センサが障害物を感知するとシャッターは停止します。障害物が光軸を遮ることで障害物感知機能がはたらきます。
- センサの光軸以外の部分では障害物感知機能は動作しません。
- センサの光軸上に障害物があると、リモコンまたは押しボタンスイッチ（オプション）を押してもシャッターは降下しません。
- 障害物の形（棒や格子状のものなど）や大きさ、位置、色（透明など）によっては光軸が遮られず、感知できない場合があります。

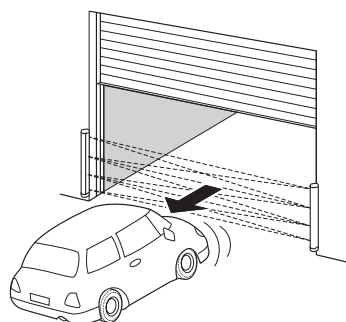
1 シャッター降下。



2 センサの光軸を障害物が遮るとシャッターは反転上昇し、約2秒後に停止します。



3 障害物を取り除いてください。その後は通常どおり使用できます。



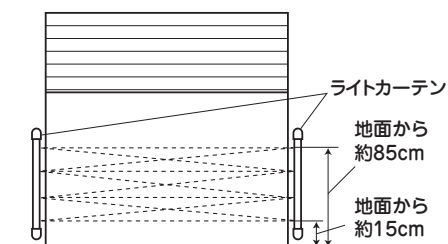
- ライトカーテンでは、シャッター上昇中は障害物を感知しません。

※ ライトカーテンの他に、負荷感知式障害物感知機能もついています。（詳細は 19 ページをご覧ください）

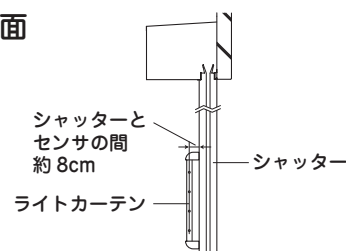
<感知エリア>

以下の範囲で障害物を感知します。

正面



側面

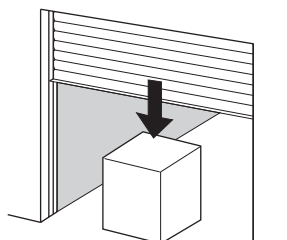


※ 間口が狭い場合（1.8m 以下）は、上図の斜め点線上では障害物感知機能は動作しません。

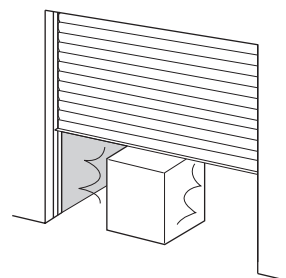
負荷感知式

- シャッター降下中、水切りに障害物があたり、開閉機に負荷がかかることで障害物感知機能がはたらきます。
- ガイドレール内、シャッターの上から 20cm、地面から 10cm の範囲では障害物感知機能は作動しません。
- 障害物に急な傾斜があるなど、接触面の状態によっては障害物を検知できない場合があります。
また、障害物を検知して停止した場合でも、シャッター重量により障害物を破損するおそれがあります。

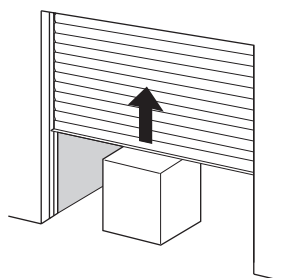
1 シャッター降下。



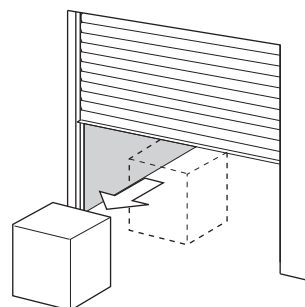
2 水切り（シャッターカーテン下端）に障害物があたります。



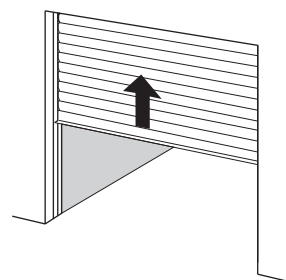
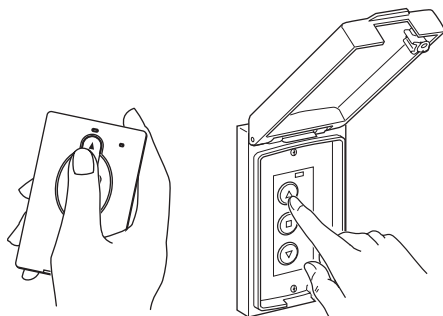
3 反転上昇し、2 秒後に停止します。



4 障害物を取り除いてください。



5 「OPEN」スイッチまたは「開」ボタンを押してください。 その後は通常どおり使用できます。

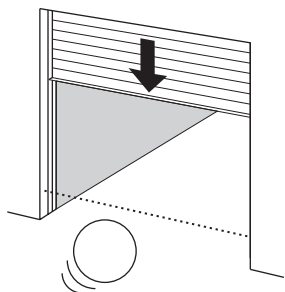


※ 障害物感知後は、「CLOSE」スイッチ、「閉」ボタンを押してもシャッターは動きません。

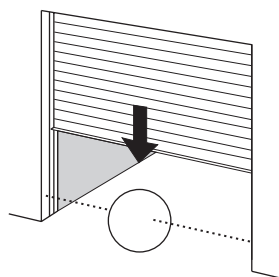
光電管センサ（オプション）

- シャッター降下中、障害物が光軸を遮ることで障害物感知機能がはたらきます。
- 光電管センサの光軸以外の部分では障害物感知機能は動作しません。
- 光電管センサの光軸上に障害物があると、リモコン、または押しボタンスイッチを押してもシャッターは動作しません。
- 光電管センサの障害物感知機能をお取り付けされている場合は、別冊の「光電管センサ取扱説明書」もご確認ください。

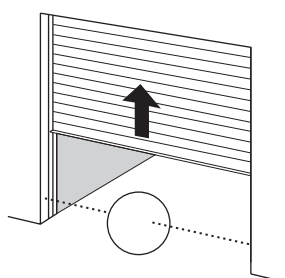
1 シャッター降下。



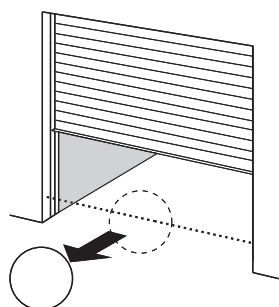
2 光電管センサの光軸を障害物が遮ると



3 シャッターは反転上昇し、約2秒後に停止します。



4 障害物を取り除いてください。その後は通常どおり使用できます。



電動式の手動切り替え操作

停電などの発生により、電動シャッターが操作できない事態が発生した場合は、シャッターを手動操作に切り替えてご使用できます。



警告

3～11ページの警告事項・注意事項を守ってご使用ください。
これらを守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

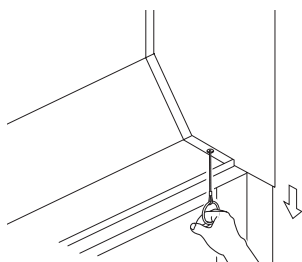
注 記

- 停電等の緊急時以外は切り替え操作をしないでください。
- シャッターの下に、人や物がいないことを確認してから操作してください。
- 手動操作のままでは、シャッターが開いてしまうため手動操作後は、必ず電動操作に戻してください。

- シャッターケースの形状や納まりにより、手動切り替え方法が異なります。

手動切替装置（手動開放リングタイプ）の場合

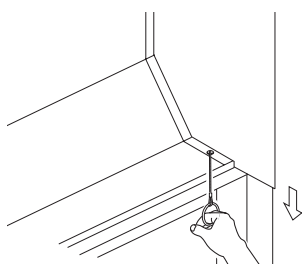
- 1** リングを持ってワイヤーを真下にゆっくりと、引けなくなるまで引っ張ります。（約 3cm ほどストロークします。）



- 2** シャッターを手動で静かに動かします。
動かせない場合は、再度手動開放リングを引っ張ってください。



- 3** ワイヤーを真下にゆっくりと、引けなくなるまで引っ張ります。（約 3cm ほどストロークします。）

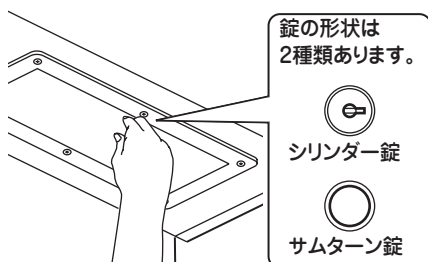


- 4** シャッターが手動で動かないことを確認してください。
動く場合は、再度手動開放リングを引っ張ってください。

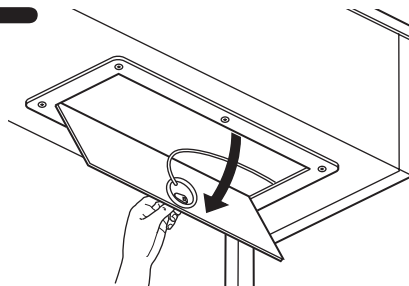
点検口の場合

- 点検口は、シャッターケース下面右側または、下面左側にあります。

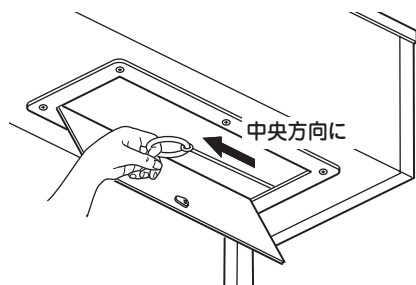
1 シャッターケース下面にある点検口を、解錠します。



2 点検口を開けます。



3 リングを持って中央方向に向かって真横にゆっくりと、引けなくなるまで引っ張ります。(約3cmほどストロークします。)

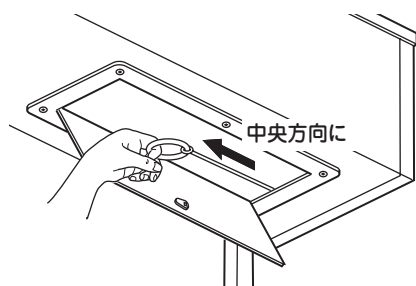


- 手動開放リングを真下に引っ張ると、手動開放ワイヤーが破損する場合があります。

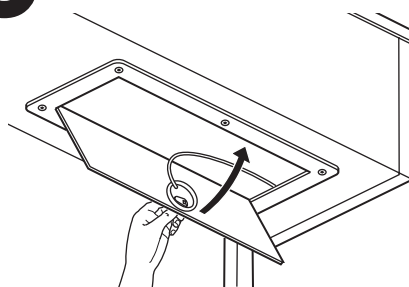
4 シャッターを手動で静かに動かします。動かせない場合は、再度リングを引っ張ってください。



5 リングを持って中央方向に向かって真横にゆっくりと、引けなくなるまで引っ張ります。(約3cmほどストロークします。)



6 手動開放リングを鍵に引っかけて点検口をしめます。



7 点検口を施錠します。

8 シャッターが手動で動かないことを確認してください。動く場合は、再度リングを引っ張ってください。

リモコンの電池交換

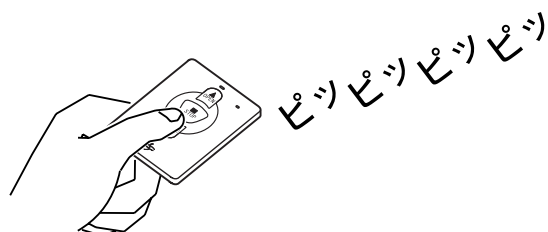
- 電池が消耗すると、到達距離が短くなるなど正常な動作をしません。電池は、通常 1 年を目安に交換してください。

注 記

- 電池は指定のものを使用してください。
(コイン形リチウム電池 CR2025 型×1 個)
- +、- の極性を間違えないでください。

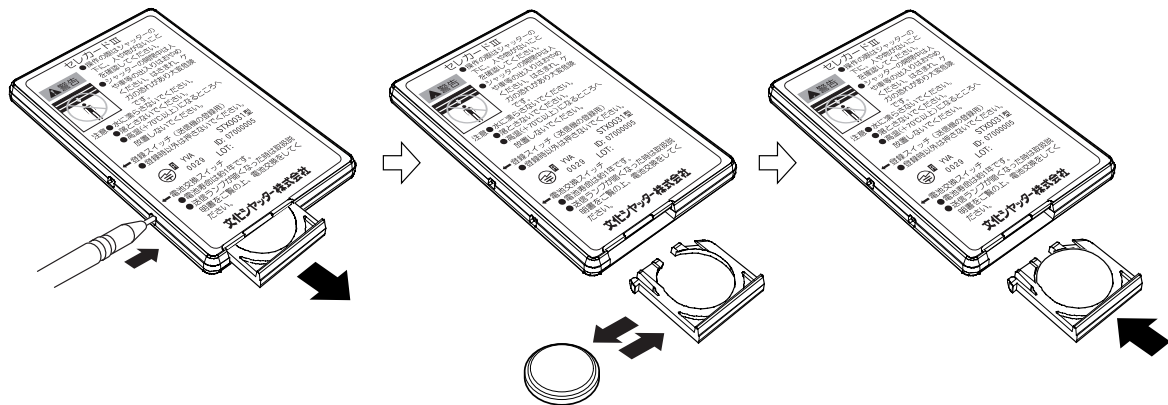
電池消耗時の確認動作

スイッチを押している間、音が鳴りつづける場合は、電池容量が低下しています。



電池交換方法

- 電池が落下しないように、机の上で交換してください。



側面の電池交換スイッチをボールペンなどの先で押すと電池ケースがスライドします。電池ケースをリモコンから引き出してください。

新しい電池と交換してください。電池の+マークは下になります。

電池ケースを元に戻してください。

リモコン（ID コード）を追加登録する方法

- 現在ご使用中のリモコンを使って、新しいリモコンの登録をしてください。
新しいリモコンから直接登録はできません。
- リモコンの追加登録は、お客様にて行うことも可能です。
- 当社においても有償にて請負いたします。41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください。

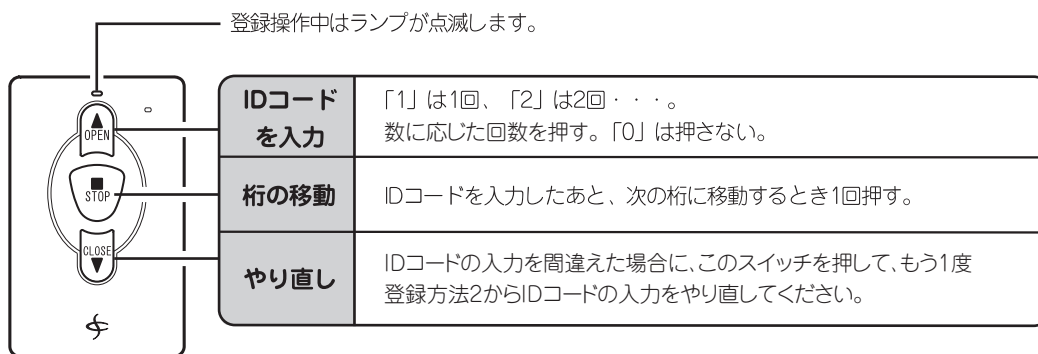


注意

- リモコンの追加登録は、シャッターの見えるところで行ってください。シャッターにリモコンの電波が届かないところでは、リモコンの追加登録はできません。
- 登録操作中のリモコンからのシャッター操作は無効となります。
- 登録・抹消以外の目的で登録スイッチを操作しないでください。

ID コードを入力するときのスイッチの役割

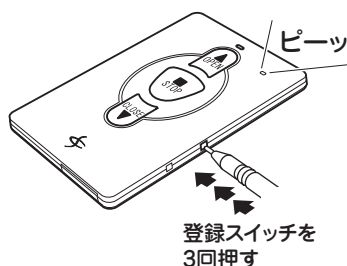
現在ご使用中のリモコン



1

現在ご使用中のリモコンの登録スイッチを 3回押す と、ブザーが1秒間鳴ります。

現在ご使用中のリモコン

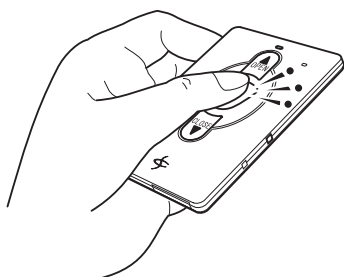


登録スイッチを押してから1分間何も操作しないと、ピーピーピーと音が鳴り登録操作は無効となります。登録方法1からやり直してください。

2

新しいリモコンの裏面に記載してある ID コードを、現在ご使用中のリモコンを使って下記の手順で入力します。

現在ご使用中のリモコン



新しいリモコン



入力回数を間違えた場合には、CLOSE スイッチを押してもう 1 度登録方法 2 から ID コードの入力をやり直してください。

登録を途中で中止したい場合には、1 分間リモコンを操作しないでください。
(1 分後に登録操作が解除されてシャッター操作が可能になります)

例 登録する新しいリモコンの ID コードが「07650043」の場合

ID コード	0	➡	7	➡	6	➡	5	➡	0	➡	0	➡	4	➡	3	
スイッチの 操作	何も押さない	STOP を 1 回押す	OPEN を 7 回押す	STOP を 1 回押す	OPEN を 6 回押す	STOP を 1 回押す	OPEN を 5 回押す	STOP を 1 回押す	何も押さない	STOP を 1 回押す	何も押さない	STOP を 1 回押す	OPEN を 4 回押す	STOP を 1 回押す	OPEN を 3 回押す	STOP を 1 回押す

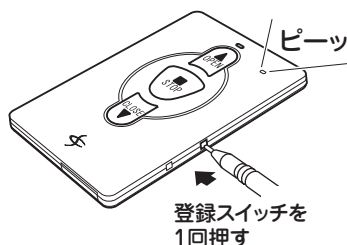
※ 早くスイッチを押しすぎると、認識できない場合があります。スイッチを押すたびに音が鳴りますので、それを確認しながら登録操作を行ってください。

🔊:「ピッ」 🗨️:「ピピッ」 🗨️:「ピー」

3

現在ご使用中のリモコンの登録スイッチを 1 回押します。ブザーが 1 秒間鳴り、登録が完了です。登録が完了したら、新しいリモコンでシャッターの開閉をして動くことを確認してください。シャッターが動かない場合は、再度登録方法 1 からやり直してください。

現在ご使用中のリモコン



登録が完了したら、新しいリモコンの裏面に記載してある ID コードシールを 29 ページの管理表に貼ってください。

※ 新しいリモコンでシャッターが開閉しない場合、受信機の最大登録台数が越えていることも考えられます。

リモコン（ID コード）を抹消する方法

- 現在ご使用中のリモコンを使って、リモコンの抹消をします。
- 当社においても有償にて請負いたします。41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください。

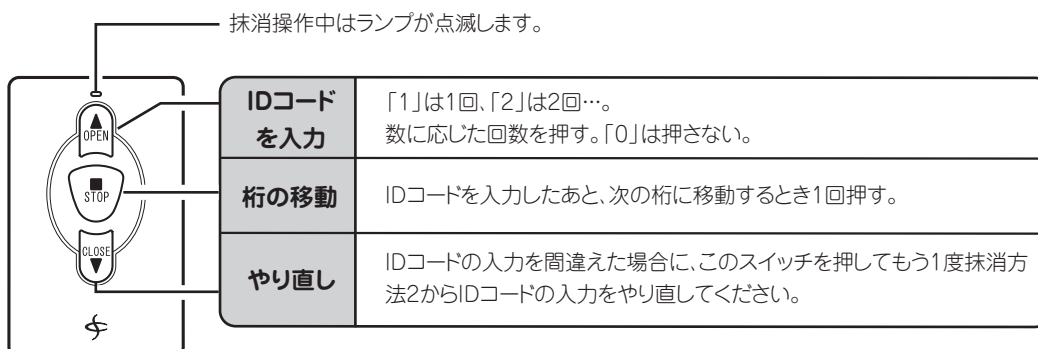


注意

- リモコンを盗難・紛失した場合は、このページの手順にしたがい紛失したリモコンを使えないようにする必要がありますが、その際紛失したリモコンの ID コードが必要となります。ID コードがわからない場合は、41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社までご連絡ください。
- リモコンの抹消は、シャッターの見えるところで行ってください。シャッターにリモコンの電波が届かないところでは、リモコンの抹消はできません。
- 抹消操作中のリモコンからのシャッター操作は無効となります。
- 登録・抹消以外の目的で登録スイッチを操作しないでください。
- リモコンをすべて紛失してしまうと、お客様にて ID コードを抹消することはできません。41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください（有償）。

ID コードを入力するときのスイッチの役割

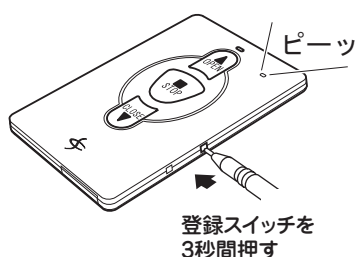
現在ご使用中のリモコン



1

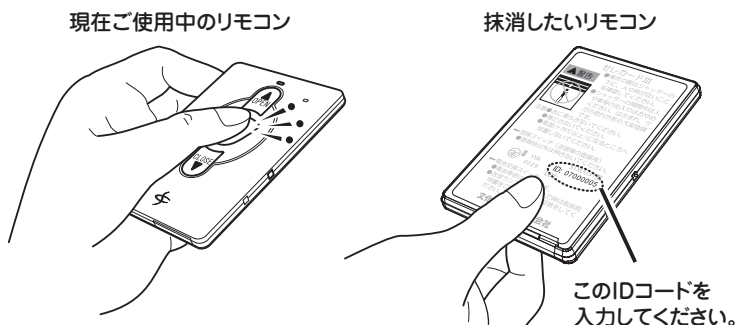
現在ご使用中のリモコンの登録スイッチを 3 秒間押すと、ブザーが 1 秒間鳴ります。

現在ご使用中のリモコン



登録スイッチを押してから 1 分間何も操作しないと、ピーピーピーと音が鳴り抹消操作は無効となります。抹消方法 1 からやり直してください。

2 抹消したいリモコンの裏面に記載してある ID コードを、現在ご使用中のリモコンを使って下記の手順で入力します。紛失したリモコンの ID コードは、29 ページの「リモコン (ID コード) の管理表」に貼付けた ID コードシールを見て、ID コードの入力をしてください。



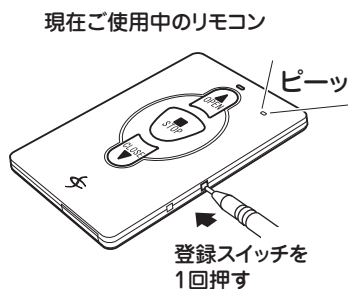
入力回数を間違えた場合には、CLOSE スイッチを押してもう 1 度抹消方法 2 から ID コードの入力をやり直してください。
抹消を途中で中止したい場合には、1 分間リモコンを操作しないでください。
(1 分後に抹消操作が解除されてシャッター操作が可能になります)

例 抹消したいリモコンの ID コードが「07650043」の場合

ID コード	0	➡	7	➡	6	➡	5	➡	0	➡	0	➡	4	➡	3	
スイッチの 操作	何も押さない	STOP を 1 回押す	OPEN を 7 回押す	STOP を 1 回押す	OPEN を 6 回押す	STOP を 1 回押す	OPEN を 5 回押す	STOP を 1 回押す	何も押さない	STOP を 1 回押す	何も押さない	STOP を 1 回押す	OPEN を 4 回押す	STOP を 1 回押す	OPEN を 3 回押す	STOP を 1 回押す

※ 早くスイッチを押しすぎると、認識できない場合があります。スイッチを押すたびに音が鳴りますので、それを確認しながら抹消操作を行ってください。
▲:「ピッ」 ●:「ピピッ」 ▼:「ピー」

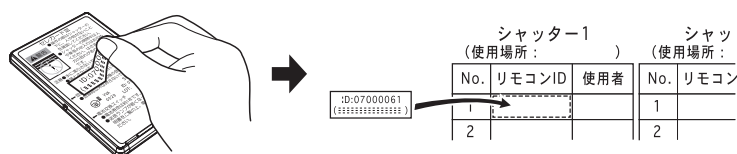
3 現在ご使用中のリモコンの登録スイッチを 1 回押します。ブザーが 1 秒間鳴り、抹消が完了です。抹消したリモコンがお手元にある場合は、抹消したリモコンでシャッターの開閉をして動かないことを確認してください。シャッターが動く場合は、再度抹消方法 1 からやり直してください。



※ 抹消したリモコンがお手元になく、より確実に抹消したい場合は、41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご依頼ください。すべてのリモコンの登録をリセットし、再登録し直します。(有償)

リモコン (ID コード) の管理のお願い

- リモコンを紛失した場合、もしくは盗難された場合にリモコン (ID コード) の登録を受信機から抹消する必要があります。リモコン裏面の ID コードシールを下表に必ず貼付してください。(シールが無い場合には、登録が抹消できない可能性がありますのでご了承ください)
- リモコン裏面の ID コードシールを下表の「リモコン ID」の欄へ貼付の上、リモコン紛失時において ID コードが照合できるように使用者名を下表へご記入ください。
- シールを紛失された場合には、リモコン裏面の ID コードを「リモコン ID」の欄へご記入ください。



リモコン (ID コード) の管理表

シャッター 1 (使用場所:)			シャッター 2 (使用場所:)			シャッター 3 (使用場所:)		
No.	リモコン ID	使用者	No.	リモコン ID	使用者	No.	リモコン ID	使用者
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
6			6			6		
7			7			7		
8			8			8		
9			9			9		
10			10			10		
11			11			11		
12			12			12		
13			13			13		
14			14			14		
15			15			15		
16			16			16		

スイッチ 2 回押し操作への切替方法

- 誤ってスイッチが押されることを回避するために、「OPEN スイッチ」および「CLOSE スイッチ」を 2 回押すことで操作できるように設定を切り替えることができます。
(STOP スイッチは 1 回押し操作のままです)
- リモコンを携帯される場合など、誤ってスイッチが押されると、意図せずシャッターを動作させてしまう可能性があります。予め設定を変更してご使用いただくことをお勧めします。
- 本設定は、お客様にて行っていただきます。
- 当社においても有償にて請負いたします。41 ページに記載してある文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください。

⚠ 注意

- 購入時の初期設定は、スイッチ 1 回押し操作の設定です。
- STOP スイッチを操作して設定を行います。
- 設定中に STOP 以外のスイッチが押されると、切替操作が無効になります。
- 設定中は、リモコンからのシャッター停止操作が無効になります。

注 記

- 各手順の操作は、前の手順の操作後 3 秒以内に行ってください。
3 秒以内に行わないと、切替操作は無効になります。
無効になった場合は、切替方法 1 からやり直してください。
- スイッチ 2 回押し操作からスイッチ 1 回押し操作に戻す場合も、この切替操作を行ってください。

切替操作による各スイッチの操作方法

	スイッチ1回押し操作時	スイッチ2回押し操作時
OPEN スイッチ	1回	3秒以内に 2回
STOP スイッチ	1回	1回
CLOSE スイッチ	1回	3秒以内に 2回

- 1** STOP スイッチを 5 秒間 押すと、ブザーが 2 回鳴ります。
(ランプも 2 回点滅します)

3秒以内に



- 2** STOP スイッチを離すと、ブザーが 1 回鳴ります。
(ランプも 1 回点滅します)

3秒以内に



- 3** STOP スイッチを 1 回 押すと、ブザーが 1 回鳴ります。
(ランプも 1 回点滅します)

3秒以内に

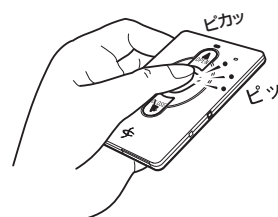
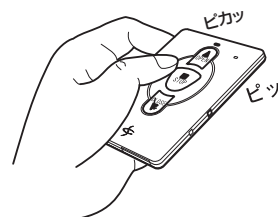


- 4** もう一度、STOP スイッチを 1 回 押すと、ブザーが 3 回鳴ります。
(ランプも 3 回点滅します)

3秒以内に



- 5** 最後に、STOP スイッチを 3 回 押すと、ブザーが 5 回鳴り、設定が完了します。
(ランプも 5 回点滅します)



手動式の使い方



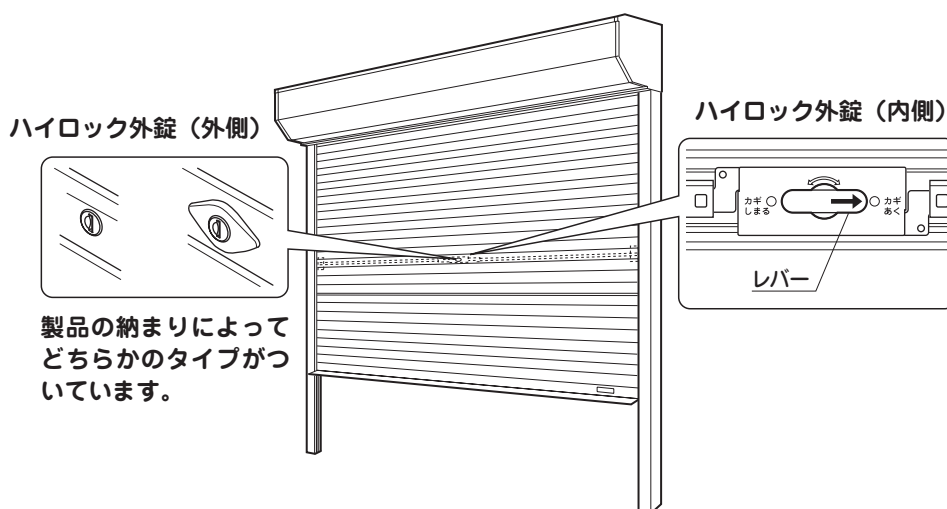
警告

3～11ページの警告事項・注意事項を守ってご使用ください。これらを守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

注 記

- 施錠するときは、シャッターが完全に閉鎖していることを確認してください。シャッターが完全に閉鎖していないと、鍵がかかりません。
- 屋内から解錠するときは、ハイロック外錠のレバーが水平になるまで回して下さい。
レバーが水平でないと、シャッターを開けたときに錠の機構部がレールなどに引っかかり、破損する場合があります。
- 屋内側から開閉操作するときは、ハイロックバーは持たないで、必ず手掛け部分を持ってゆっくり開閉してください。

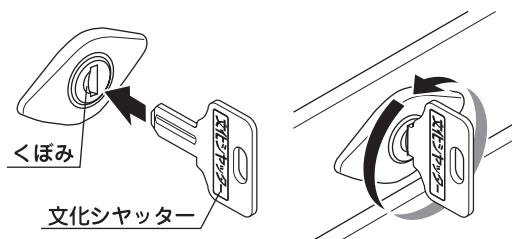
手動式の施解錠は、屋内側、屋外側どちらからでも行えます。



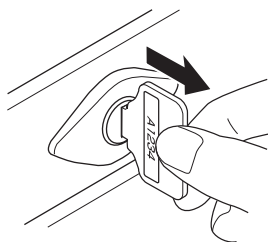
開け方

< 屋外から >

1 「文化シャッター」の文字と鍵穴のくぼみを合わせて鍵を差し込み、左にまわします。

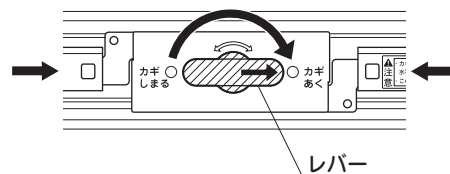


シャッターを開ける際は、必ず鍵を抜いてください。



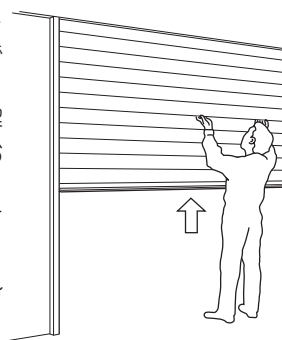
< 屋内から >

レバーが水平になるまで右に回します。

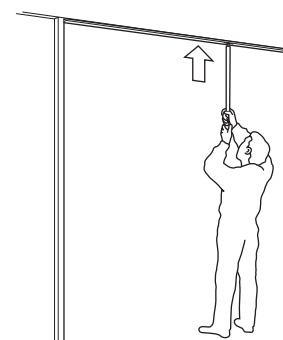


2 手掛けを持って、水切りが胸の位置にくるくらいまで静かに引き上げます。

※ ハイロックバーを持って開閉しないでください。
バーが曲がって施解錠がしにくくなるおそれがあります。
※ 鍵を持ったまま開けないでください。
鍵が破損するおそれがあります。



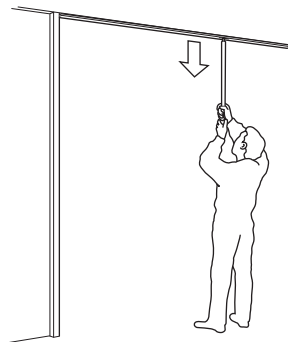
3 フック棒を水切りの穴にかけ静かに押し上げます。



閉め方

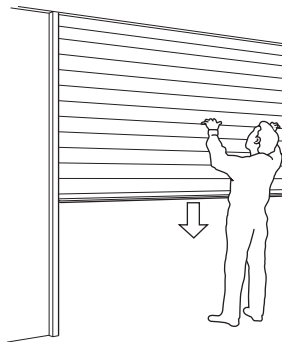
1

フック棒を水切りの穴に引っ掛け、胸の位置くらいまで静かに引き下げます。



2

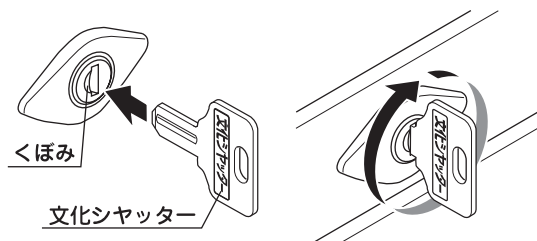
フック棒をはずして、手掛けを持って最下部まで静かに下げます。



3

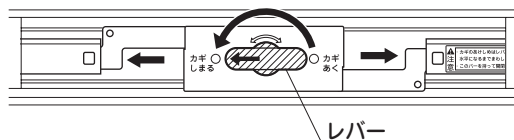
＜屋外から＞

「文化シャッター」の文字と鍵穴のくぼみを合わせて鍵を差し込み、右にまわします。



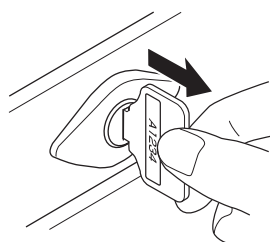
＜屋内から＞

レバーが水平になるまで左に回します。



※レバーが水平になると施錠されます。

施錠後は、必ず鍵を抜いてください。



5. お手入れ方法



警告

3～11ページの警告事項・注意事項を守ってご使用ください。これらを守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

お手入れの仕方

注 記

- 製品に直接水をかけないでください。製品に水をかけるとサビの発生や消耗が促進されたりします。また電装品が漏電して、勝手に動作したり感電するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 製品へのキズを避けるため、金属ブラシ、たわし、みがき粉等の硬いものでこすらないでください。製品にキズが付くと、錆の原因となります。
お手入れの際は、柔らかい布をご使用ください。
- 酸性またはアルカリ性の洗剤、ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤は、変色や腐食の原因となりますので使用しないでください。

スチール、アルミ部品共通のお手入れ

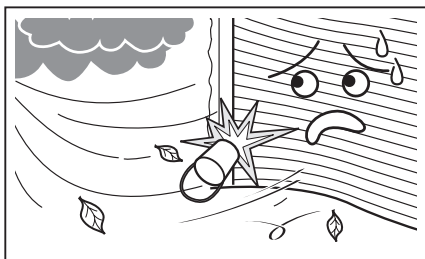


雨などにより、泥、ほこりなどが付着しますと錆の発生を早めます。

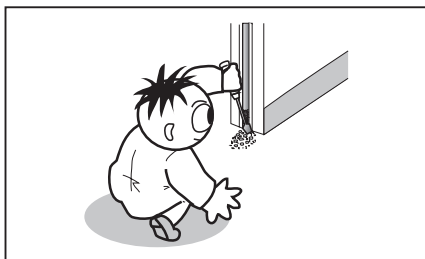
カーテンおよびガイドレールが汚れた場合は、ぬれた布などで汚れを落とした後、固く絞った布などで水分をふきとってください。



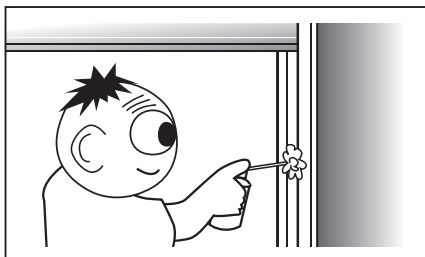
水洗いで落ちない汚れは、ぬるま湯で薄めた中性洗剤を使用した後、水洗いし、最後に乾いた布で水分をふき取ってください。



強風の際（特に台風の場合）は、塩分が内陸部まで飛来することがあるので、風が収まった後、出来るだけ早い時期のお手入れが必要です。

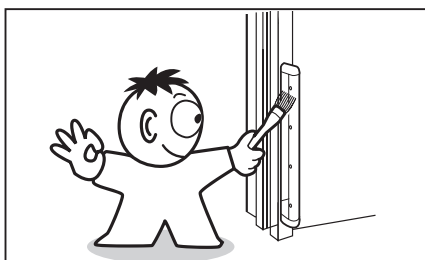


ガイドレール底部には泥などがたまりますので、一週間に一度くらい掃き出してください。



レールとカーテンの接触部に汚れがつくと開閉時に音なりが発生する場合があります。35 ページのお手入れをした後、シャッターを開けた状態でガイドレールの中に文化シャッター製オイルを塗布してください。（文化シャッター製オイルが付きすぎた場合はふきとってください）

センサがついている障害物感知装置の場合、センサ部分を避けてスプレーしてください。



デラックスタイプでは、ライトカーテンの障害物感知装置が設置されています。センサの表面に泥やほこりがつくと誤作動する場合があります。定期的にセンサ表面をやわらかい布やハケのようなもので除去してください。

シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。センサ表面が傷つき、正常に動作しなくなります。

革製品のお手入れ

- リモコンのレザージャケットのお手入れは、乾いた柔らかい布をご使用ください。
- 色落ちする場合がありますので、レザージャケットを濡らさないでください。

お手入れ回数の目安

- 清掃は下記の基準をめやすとし、定期的に行ってください。

（1年あたりの回数）

	海岸地帯	工業地帯	市街地	田園地帯
スチール（塗装品）	1～4	1～3	1～2	1
アルミ（クリア塗装）	1～4	1～3	1	1

6. 点検

日常点検



警告

必ず以下の日常点検を行ってください。日常点検を行わないと人身事故や重大事故になる場合があります。

日常点検で不具合を発見したら、ただちに使用を止め、41ページに記載の文化シャッターサービス株式会社に修理をご依頼ください（有償）。

1

表示ラベルの脱落、破れ、はがれなどがいないか確認してください。読めなかったり、正しく貼られていなかったり、破損していたりしたら、最寄の文化シャッター営業所までご連絡ください。

2

小町様の開閉状態については以下の事項を確認してください。

- ・今までと違った異音がないこと。
- ・今までと違った振動がないこと。
- ・外観に使用上有害な変形がないこと。
- ・全開・全閉で停止すること。
- ・電動の場合、停止してから小町様が滑り降りないこと。

3

小町様の下に障害物がある場合は、障害物を取り除いてから操作してください。

4

小町様の操作が容易に行える状態であることを確認してください。
操作スイッチの前に物がある場合は、操作の妨げにならない場所に物を移動させてください。

定期点検と定期的な部品交換について

- 小町様は、長期間に渡って使用するものなので、安全性維持のためには定期点検及び定期的な部品交換が必要です。



警告

定期点検と定期的な部品交換は、必ず行ってください。
適切な定期点検や定期的な部品交換を行わないと、小町様が開閉できないだけでなく、急降下などの重大事故につながる場合があります。

- 定期点検では、動作状況およびカーテン・ガイドレール部・シャフト・電装部・開閉機・各チェーン部等の機能・性能の保持のために各部品の損傷・磨耗状態をチェックし、必要に応じて調整・修復・交換・注油・ボルト等の増し締めなどを実施します。

定期点検の回数

- 定期点検の回数は、一日当たり 1 ～ 2 回開閉の場合で、年に 2 回の定期点検が適当です。

一日当たりの開閉頻度	定期点検回数（年）
1 ～ 2 回	2 回
3 回以上	打合せによる

注 記

実際には、シャッターの開閉回数、大きさ、経過年数、使用条件および用途により点検回数がことなりますので最寄りの文化シャッター株式会社の支店・営業所、または 41 ページに記載してある文化シャッターサービス株式会社にお問い合わせください。



警告

- 腐食が進みやすい環境における定期点検の必要性について
- 沿岸地区や高湿な使用環境などの腐食が進みやすい環境では、一日当たりの開閉頻度に関係なく、1 年に 2 回から 4 回程度の点検が必要です。（回数は状況により異なります）
 - 腐食への対応を行わないと、錆により正常な動作ができず重大事故につながるおそれがあります。

定期的な部品交換について（有償）

- 小町様は、38 ページに記載の定期点検を実施したうえで、定期的な部品交換が必要です。
- 小町様に使用されている部品には、表面上は正常に見えても経年劣化等により機能が低下するものがあるためです。
- 以下の部品は動作安全上、特に保安部品として定期的に交換する事が不可欠です。
 - ※ 交換時期は定期点検契約に基づいた点検・整備が行われている場合の目安です。
 - ※ 交換時期は目安であり、使用状態、使用環境によって大きく異なります。
 - ※ 製品の使用回数は、使用頻度と使用期間から算出したおおよその回数でお考えください。

〔定期交換部品と交換時期目安〕

定期交換部品	交換時期目安
ライトカーテン（デラックスタイプ）	10,000 開閉／10 年いずれか早い方
水切り	
開閉機	
制御盤	
カーテン	
巻き取り部	5,000 開閉／5 年いずれか早い方
消音帯	
水切キャップ	約 1 年
リモコンの電池	

- ※ 回数・年数は部品毎の交換の目安を示すものであり、製品全体の耐久回数を示すものではありません。
- ※ 「定期交換部品および補修部品」とは、「経過年数、開閉回数などにより、製品機能および性能を損なうおそれがあらかじめ想定できる部品」です。「定期点検時に異常が認められたもの」「不時の故障が発生した場合」については、その都度、交換または修理を行います。
- ※ 定期交換部品は予告なく変更する場合があります。

定期点検契約について



警告

定期点検と定期的な部品交換には専門知識が必要ですので、最寄りの文化シャッター株式会社の支店・営業所、または文化シャッターサービス株式会社にご依頼ください。最寄りの文化シャッター株式会社の支店・営業所、または文化シャッターサービス株式会社以外の点検は、人身事故や重大事故につながる場合があります。

- 最寄りの文化シャッター株式会社の支店・営業所、または文化シャッターサービス株式会社と「定期点検契約」を結んでいただくと、お客様のご利用状況に合わせ、年に数回の定期点検を実施します。
詳しくは最寄りの文化シャッター株式会社の支店・営業所、または 41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にお問い合わせください。

7. 故障かなと思ったら

製品本体

症 状	原 因	対 処
リモコンのスイッチまたは押しボタンスイッチ（オプション）を押してもシャッターが動かない。	シャッターの元電源（一次側電源）が切れていませんか？	シャッターの一次側電源を入れてください。
	シャッターが凍結していませんか？	シャッターの凍結を取り除いてから操作してください。
	「スイッチ 2 回押し操作」になっていませんか？	スイッチを 3 秒以内に 2 回押してください。 「スイッチ 1 回押し操作」にしたいときは、30 ページの手順にしたがって切替操作を行ってください。
水切りに障害物があってもシャッターが停止しない。	ただちに 41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください（有償）。 ※ 修理が済むまでは障害物感知機能が働かないため、シャッターを閉めるときは注意してください。	
障害物がライトカーテン（デラックスタイプ）を遮っても、シャッターが停止しない。	ライトカーテン本体が変形または破損していませんか？	ただちに 41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社へ修理をご依頼ください（有償）。 ※ 修理が済むまでは障害物感知機能が働かないため、シャッターを閉めるときは注意してください。
リモコンの「CLOSE」スイッチまたは押しボタンスイッチ（オプション）の「閉」を押してもシャッターが動かない。または、閉動作中にシャッターが停止してしまう。	障害物がはさまったままになっていませんか？	障害物を取り除いてください。
	ライトカーテン（デラックスタイプ）が汚れていたり、異物が付着したりしていませんか？	センサ表面の汚れを、ハケのようなもので清掃してください。→ 35 ページ その後、押しボタンスイッチまたはリモコンで一度シャッターを開けて、再びリモコンの「CLOSE」スイッチまたは押しボタンスイッチの「閉」を押してください。
	上記対処にて正常に戻らない場合は、ただちに 41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください（有償）。	
シャッターがスムーズに動作しない。	ただちに使用を止め、41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社へ修理をご依頼ください（有償）。	
開閉時に異常音がする。		
カーテン部に損傷がある。		

- 対処しても動かない場合または上記にあてはまらない場合には、41 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社へ修理をご依頼ください（有償）。
- 本製品修理については、部品修理または部品交換で対応いたします。なお、本製品の販売廃止後で修理不可能なものについては、新規交換が必要な場合もあります。

8. 修理のご案内

修理のご用命は ATSS へ——

突然のシャッターや窓シャッターの故障。そんな時は、文化シャッターサービス（株）のATSS=アットタイムサービスシステムをご利用ください。フリーダイヤルひとつで365日素早く対応いたします。

アットタイムサービスシステム

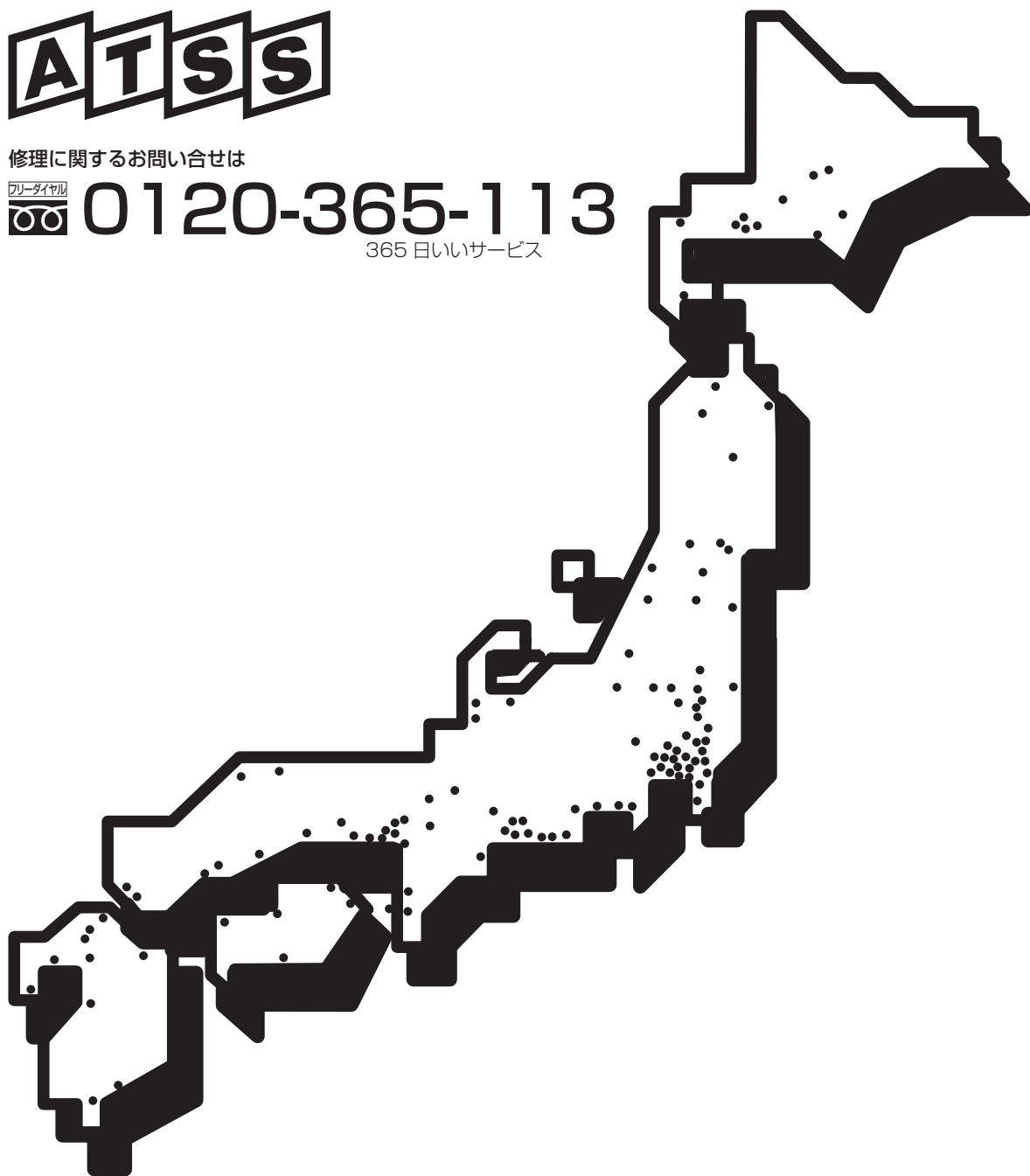


修理に関するお問い合わせは



0120-365-113

365 日いいサービス



9. 製品保証

保証期間

施工業者よりの引渡し日（注 1、注 2）から 2 年間とします。ただし、カウンタ付き製品については、その期間内でも開閉回数 1400 回までとします。

（注 1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。

（注 2）分譲住宅（建売住宅）・分譲マンションの場合は、建築主様への引渡し日とします。

保証内容

取扱説明書、ラベルその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項に該当する場合を除き、無料修理いたします。ただし、遠隔地や離島への出張修理の場合は、交通に要する実費をいただく場合もあります。

なお、強風時に雨水が浸入することがありますが、この製品上の特性であり不具合ではありません。

免責事項

保証期間内でも、次のような場合には有償修理となります。

- 1 天災その他の不可抗力（例えば、暴風、豪雨、高潮、津波、地震、噴火、落雷、洪水、地盤沈下、火災など）による不具合、又はこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合
- 2 製品又は部品の経年変化（使用に伴う消耗、磨耗。木製品のそり、干割れ等）や経年劣化（樹脂部分の変質、変色など）又はこれらに伴うさび、かび又はその他の不具合
- 3 製品周辺の自然環境、住環境などに起因する結露、腐食又はその他の不具合（例えば、塩害による腐食。大気中の砂塵、煤煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどが付着して起きる腐食。異常な高温・低温・多湿による不具合など）
- 4 自然現象や使用環境に起因する不具合（例えば、結露・凍結、風による振動・共鳴音など）
- 5 表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取り付けられた場合の不具合（例えば、カタログなどに記載された耐風圧以上の風圧に起因するものなど）
- 6 建築躯体の変形など、商品以外に起因する商品の不具合
- 7 本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合、又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
- 8 当社の手配によらない加工、組立、施工（基礎工事、取付け工事、シーリング工事など）、管理、メンテナンスなどに起因する不具合（例えば、海砂や急結材を使用したモルタルによる腐食、中性洗剤以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食、工事中の養生不良による変色、腐食など）
- 9 お客様自身の組立て、取付け、修理、改造（必要部分の取外しを含む）に起因する不具合
- 10 引き渡し後の操作誤り、整備不良又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合
- 11 使用に伴う接触部分の磨耗・傷・塗装のはがれや時間経過による塗装の退色、樹脂部品の変質・変色、めっきの劣化又はこれらに伴うさびなどの不具合
- 12 施工当時実用化されていた科学や技術、知識では予測することが不可能な現象、又はこれが原因で生じた不具合
- 13 犬、猫、鳥、ネズミ、昆虫、ゴキブリ、クモなどの小動物又はつるや根などの植物に起因する不具合
- 14 機能上支障のない音、振動など感覚的現象
- 15 犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

※保証期間経過後の修理、交換などは有料とします。

※本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理、その他についてご不明な場合は、最寄りの当社支店・営業所にお問い合わせください。

（尚、専門技術者が定期的なメンテナンスを行うことにより、機能・性能や安全性を継続的に維持することが出来ます。
長くご使用頂くためにも、ぜひ定期点検契約をお申し付け下さい。）

- お問い合わせは最寄りの文化シャッター（株）支店、営業所もしくは取扱店にご相談ください。

●お問い合わせは

文化シャッター株式会社

本社／〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3

お客様相談室 03（5844）7111

S 0 5 8

2013.08-001-J